

## 第 160 回東京支部 MRI セミナーに参加して

国立がん研究センター中央病院 望月聖也

この度は 2024 年 8 月 18 日に開催されました第 160 回東京支部 MRI セミナーに参加しましたのでご報告させていただきます。この東京支部の MRI セミナーには 3 年連続で参加させていただいております。非常に興味が惹かれるセミナー内容になっており毎年楽しみにしています。本セミナーの一番の醍醐味は、やはり東京地区の MRI のトップランナーの先生方が講師をして下さっていることだと思います。そのような先生方が、初学者にも寄り添って分かりやすく講義をして頂けるので毎回多くの刺激をもらうことができます。私は MRI に専属で従事した経験は 2 年弱程度しかなくまだまだ勉強することが山ほどある若輩者ですが、そのような先生方の講演を対面で聞き、質疑応答でディスカッションさせてもらうことで自分の理解が甘かった部分が再認識できたり、目からウロコの情報をもらえたりするのでとても良い刺激になっています。

今回は「関節疾患の MR 画像のミカタ」をテーマに 6 名の先生方から講演がありました。主には肩関節、股関節、膝関節にターゲットを絞り、各部位の解剖からコイルのセッティング、患者のポジショニング、撮像断面の切り方、臨床的に気をつけたい疾患など、実際の症例を交えて話が進んでいくので、現場で遭遇した時のことが想像できとても理解しやすかったです。また、今回の参加者は 30 名前後であり現地開催ならではのとても質問しやすい雰囲気が流れており各セッションで質問やアドバイスが多く出るととても良い環境でした。やはりこのライブ感は対面でしか味わえないと思いました。

「ポジショニングとコイルについて」のセッションでは、実際に他院のポジショニング風景を動画にて紹介して頂きどのくらいのスピードで、どのような補助具を使ってポジショニングしているのかを見ることができ大変参考になりました。すぐにでも当院の臨床に取り入れられるようなテクニックもあり明日から試してみようと思えました。

当院は施設の特徴上整形領域の撮像は骨軟部腫瘍を対象としたものが大半を占めるため、関節にフォーカスした撮像断面設定を行うことがあまりありません。しかし中には腱板損傷の除外目的の依頼などが稀にオーダーされることがあります。滅多に入らない依頼のためその度にどのように撮像すれば良いか不安になっていましたが、各セッションで適切なポジショニングと撮像断面の切り方を画像とシェーマを用いて分かりやすく解説して頂いたためこれからは自信をもって撮影を行うことができそうです。

今回のセミナーを通じてまだまだ学び足りないことや、MRI の面白さを改めて再認識することができました。このような素晴らしいセミナーを毎年企画して下さる幹事の皆様、本当にありがとうございました。来年も参加させていただきたいと思います。皆様にもお勧めできるセミナーなので、興味を持たれた読者の方がいらっしゃいましたら、ぜひ来年に参加してみてください。

